

なぎさ NEWS



「カニ釣り」の足もとでは ～地先コーナーに新しい展示オープン～

水族園周辺の水辺で人気のある遊びの一つに「カニ釣り」があります。これはタコ糸の先におつまみの「スルメ」をつけて、タカノケフサインガニを釣るものです。暖かい季節になると、葛西海浜公園のなぎさ橋付近は「カニ釣り」をする家族連れで賑わいます。このカニ釣りの場所は、ひと抱えほどの大きな石が敷き詰められた人工の護岸です。潮間帯にあたる護岸の石の表面には、一面、マガキなどの二枚貝が幾重にも重って群落を作っています。これらの貝と貝の間には小さな隙間がたくさんあり、タカノケフサインガニをはじめとしたカニの仲間やサカギンボなど小型の魚にとって格好のすみかとなっているのです。

「東京の海」2階の地先コーナーでは、2014年2月22日から「西なぎさ」の干潟の生き物だけでなく、これら多くの生き物のすみかである岩場やカキ殻の固まりなどの展示もはじめました。暖かくなったら、カニ釣りを楽しみながら足もとの水中の様子もよく観察してみてください。この水槽ではほかに、葛西地先の興味深い情報を発信してゆきます。(飼育展示係 田辺 信吾)



カキ殻を利用してくらすサカギンボ

春の干潟に行ってみよう!



コメツキガニの巣穴と砂団子

日に日に暖かくなり、水族園の目の前にある干潟「西なぎさ」でも、いろいろな生き物が活動をはじめました。春は1年の中でも昼間にもっとも潮がひく季節、生き物を観察するのもってこいです。ぜひ、干潮の時間をみはからって出かけてみてください。冬の間は静かだった砂地の上には、小さな砂の団子がたくさん見つかります。これらはコメツキガニが巣穴を掘ったりエサを食べていたりした跡です。ところどころに残った海水の水たまりには、カレイやハゼの子どもが隠れているかもしれません。砂とそっくりの体色をしていますが、近づくとチョロっと動くので居場所がわかります。透明なプラスチックの容器などに入ると観察しやすいのですが、この小さな魚たちはなかなか捕まりません。狩猟本能が刺激されること間違いなしです。また、この時期は「潮干狩り」もおすすめです。バケツにいっぱいマテガイやアサリをとっている名人を見つけたら、コツを聞いてみるといいかもしれませんね。水族園でもこの時期に干潟の観察会を開催します。詳しくは当園のホームページでご確認ください。(教育普及係 宮崎 寧子)

なぎさ 生き物ミニ情報

●地曳網調査の結果

1月:水温は7℃、ヒメハゼ、アシシロハゼ、マゴチ、シラタエビなどが少数採集されました。また、カブクラゲが多数見られ、砂浜に打ちあがっているものもありました。**2月:**水温は9℃、おもな採集生物は1月とほとんど変わりませんでした。全長3cmほどのアユの稚魚がとれました。その他、3月にはアユの稚魚やカミクラゲを地曳網で採集し、展示しました。

水族園は「西なぎさ」と「東なぎさ」で、さまざまな生き物調査を行っています。今回は、1月と2月に行った地曳網調査の結果と「西なぎさ」でもっともよく観察されるカニ、コメツキガニについて紹介します。

●こんな生き物を観察してみよう「コメツキガニ」

コメツキガニはちょっとしたコツがわかれば簡単に観察できます。まず干潟の上で、鉛筆ほどの直径の垂直に掘られた穴とその周りに散らばる砂団子をさがします。コメツキガニがいる証拠です。しかし、穴や砂団子は見つかりませんがカニはいないかもしれません。干潟にくらすカニたちの最大の敵は鳥です。穴の近くで大きな物体が動けば、すぐに巣穴に隠れてしまいます。そこで次は、干潟の上にしゃがみ、動かないように待ってみてください。じっと我慢です。やがて、穴から小さなカニがチョコチョコと出てきます。あなたが我慢強く、じっとしていれば、さらにおもしろい行動をみせてくれるかもしれません。(教育普及係 天野 未知)